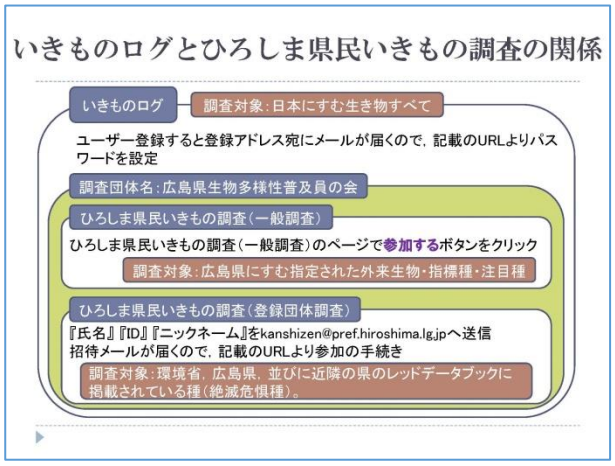
2020 年 10 月 17 日、福山市南今津町地先の松永湾で、干潟の生きもの観察会を開催しました。お昼ごろまで降っていた雨もあがり、小・中学生 8 名、幼児 3 名を含む総勢 34 名の参加者が集う、とてもにぎやかな観察会となりました。

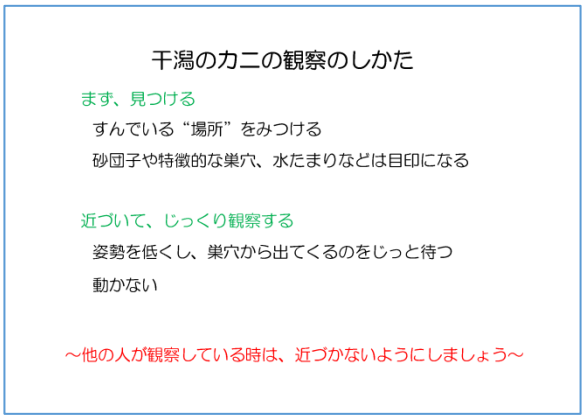
集合場所は、福山市西部市民センター5 階の多目的ホール（収容人数：通常時 120 名）です。「早く現地へ行きたい！」、という声が聞こえてきそうでしたが、残念ながらこの時点の潮位は 3mを切ったばかり、干潟のほとんどはまだ海の中です。まずは多目的ホールで座学を行います。

最初に、「ひろしま県民いきもの調査」の紹介と、「いきものログ」の説明を行いました。「ひろしま県民いきもの調査」は、広島県が生物多様性を守る取り組みとして行っている県民参加型の調査です。

「ひろしま県民いきもの調査」では、環境省がインターネット上に開設している「いきものログ」を活用して、調査参加者からの情報を収集しています。そのため、「いきものログ」へ登録していただくことと、投稿方法等の使い方を知っていただくことが最初に必要なステップとなります。



次いで、干潟と松永湾についての解説です。松永湾は、福山市と尾道市に囲まれた湾で、県内で最も広い干潟がある海域です。観察会場の南今津町地先の干潟は、藤井川と本郷川に挟まれた位置にあり、砂と泥がさまざまな割合で混じりあった場所です。そのため、砂地を好む生きものから泥地を好む生きものまで、希少な種を含めてたくさんの生きものが生息しています。これから観察する干潟でみられる生きもの、特に干潟のカニやトビハゼといった動物や、海水に浸かる場所に生える塩生植物について、そのみつけ方や観察方法などを動画や図をまじえて説明しました。



1 時間の座学を終えて、いよいよ観察地の南今津町へ向かいます。西部市民センターから観察地までは 3km 足らずの距離です。マイクロバスとジャンボタクシーに分乗し、約 10 分の移動でした。少し肌寒い中、車窓を開け、マスクを着用しての移動、ご協力ありがとうございました。予定どおり 15 時に現地に到着すると、そこには干潟が広がっていました。

参加者は、座学での説明を手掛かりに、各自で干潟の生きもの探しに挑戦です。護岸近くの潮だまり周辺にいたトビハゼは割と簡単にみつかりますが、良く見ようと近づくとピョンピョンと跳んで離れていってしまいます。また、干潟に巣穴を持つハクセンシオマネキやコメツキガニは、頻繁に人が近づくことを警戒してか、なかなか巣穴から出てきてくれません。そこで、トビハゼやこれらのカニは、“代表者”を選抜し、少しの間、小さな水槽に入ってもらいました。トビハゼが胸ビレで歩いたり、吸盤のような腹ビレで壁に貼りつくようすや、ハクセンシオマネキとコメツキガニの形や色の違い、ハサミや脚の特徴的な部位などを、じっくりと観察しました。

これらの干潟のカニのほかにも、石の下や潮だまりからヒライソガニやケフサイソガニ、護岸、敷石の隙間からフタバカクガニ、などをみつけてきた参加者がいました。すんでいる環境によってカニの種類が違うこと、いろいろな生息環境があることがすんでいる生きものの種類を豊富にしていることを実感していただけたのではないでしょうか。その場所の環境から何がすんでいるか予想できたり、種類を見分けることができたりすると、きっとこれまで以上に生きものを見るのが楽しくなると思います。

塩生植物は、逃げたり隠れたりしないので、ゆっくり観察することができます。“メロンの香り”が人気だったフクドのほか、ハマサジ、ハママツナ、ナガミノオニシバなどがみつかりました。

今回の観察会の参加者の中には、「ひろしま県民いきもの調査」に既に登録済みの方や、最初の説明で登録を済まされた方、また、時間内には登録できなかったけど今後やってみたいと希望される方が多数おられました。この観察会でみつけた生きものの中で、トビハゼ、ハクセンシオマネキ、ハマサジ、ハママツナの４種類は、「ひろしま県民いきもの調査」の一般調査で、「干潟の環境指標種調査」の対象種になっています。今回、これらを実際に探したり見たりした経験が、これから調査に参加する際に役立てば嬉しいことです。お住まいの地域の河口や海岸でも、思わぬ生きものに出会えるかもしれません。

今後はぜひ、スマートフォンやデジタルカメラを手に、いろんな場所を調査してみてください。